岐阜県飛騨市　地域学校協働活動通信

人が育つ　地域づくりの未来像

子どもの学び、地域住民の生きがいづくりを行う地域学校協働活動推進員の活動を紹介する通信

3

2024.02

地域と子どもの「つなぎ役」　～盛んな多世代交流、広がる地域の輪～

3

野村 俊巳　地域学校協働活動推進員(河合小学校区)
河合町出身。教員退職後に推進員に就任。その他飛騨市の民生委員、飛騨市PTA連合会事務局等所属し、地域とつながりを持ちながら活動している。

林 志保　地域学校協働活動推進員(河合小学校区)
高山市出身。田舎暮らしに憧れて、結婚後に河合へ移住。現在は家庭菜園を営むかたわら、河合をフィールドに地域での新たな活動のきっかけをつくっている。

「飛騨市にはまだまだ知らないことがいっぱいある」と話す２人に、活動内容や地域活動の魅力などを伺いました。

学びのフィールドは〝地域〟週末や夜も活動

ー推進員の活動内容を教えてください。

（野村）ひとことで言えば学校ではやれないこと、やりにくいことをやっています。子どもたちを地域で育てることが狙いです。学校では、学年やクラスという大きな単位で同じことをやりますよね。しかし私たちの場合、希望者だけが参加できるようにすることで、学校が活動できない土日や夜間でも活動できます。また、私たちは〝地域がフィールド〟と考えているので、活動場所は学校にとどまりません。川で釣りをしたこともありましたね。

（林）そうそう。そのほかにも畑で野菜を作りました。あとはクズの花を取りに山に行ったり、まちの工場にインタビューに行ったりしました。

ー地域の人の協力はどのように得ているのですか？

（野村）実は必ずしも、私たちから働きかけているわけではないんです。地域住民や保護者の中には「学校では味わえない体験を子どもたちにさせてあげたい」という思いを持つ方がいます。ただ、やりたいことがあってもどのように始めたらいいか分からない。そういうときに私たちが仲立ちをして、「一緒に何か活動をやりませんか？」と声をかけています。例えば、漁業組合の人たちからは「釣りや魚の魅力を子どもたちに教えたい」という声がありました。私たちが組合の人たちに代わって聞いてみると、魚を釣ったことがない子がたくさんいることが分かり、「じゃあ釣り教室をやろうか！」という話になりました。

（林）日頃から地域の皆さんからさまざまなアイデアをいただいています。推進員への依頼というよりは、普段の会話の中でちらほら出てきて、ちょっとずつ実現に近づいていくという感じですね。

（野村）地域住民や保護者がアイデアを出して、私たちが子どもとつないでいく。地域学校協働本部の活動をさらに知ってもらえれば、地域と子どものつながりがより増えていくのではないかと思っています。

飛騨の〝未知〟をこれからも。人手も募集中

ーこれからの活動について教えてください。

（林）今の仕事は全て自分たちでやっており、ほかに手を回す余裕がありません。広報や会計等、お手伝いできる方がいらっしゃったらいいなと思います。

（野村）あとは、学校外での活動になるので、安全面の確保は課題だと感じています。事故が起きてしまえば全てがなくなるわけですから、どのように安全を高めていけるか考えていかなければいけません。

（林）安全を高めるにしても、地域の人によって、危機管理の感覚が違うのが大変ですよね。しかし、私たちもそこは勉強です。私たちの問題も含めて、子どもたちに伝えられればいいなと思っています。

（野村）そして、自分たちも子どもたちと一緒に楽しんで活動したいですね。飛騨市にはまだまだ知らないことがいっぱいあります。もっとすごい人がいると思うんです。日々、アンテナを張っておくことが大切だと思います。

全文は
こちら↓

※こちらの内容は公開時点（2023年2月20日）の情報です

スローガン

河合っ子から河合びとを育て、地域の担い手をつくる

取組概要

河合小学校地域学校協働本部では、河合小学校の教育目標「自分から動き、仲間とともに高め合う　河合っ子から河合びとへ～」を前提に、子どもたちが主体的に取り組める仕組みづくりを行っています。

きっかけ

学校の課題
自主性の弱さ
全校児童３０名前後の小規模校。子どもたちは、自ら進んで行動することに弱さがある。

地域の課題
人口減少による不安
過疎化が進み、将来地域が消滅してしまうのではないかという不安がある。

魅力を再認識
地域のよさを再認識し、郷土を誇りと感じること

魅力を発信
そこから学んだ地域の魅力を発信すること

「河合っ子マルシェ」誕生

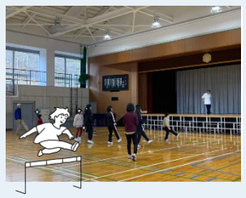
こんな活動もしています！

小農塾

子どもたちが学校帰りに地元農家を訪れ農業を教わる体験教室。有機農業による栽培の楽しさや難しさなどに触れながら学びます。

運動教室

人数が少なくチームスポーツを体験する機会が少ない子どもたちに、多種多様なスポーツに触れる機会を提供することが目的。これまで３回実施しています。



ばあちゃん食堂

地域住民が集う憩いの場、として地元のおばあちゃんが運営する子ども食堂。毎月趣向を凝らしたメニューが提供され、子どもたちをはじめ地域住民から好評です。

コンセプト

こ　子ども目線
こ　好奇心
あ　遊び心

・子ども目線
・好奇心
・遊び心

の３つの頭文字をとった「ここあ」の名称で活動を行っています。

協働本部の組織体制

ここあ

野村俊巳（代表）

地域活動部
林 志保
（マルシェ）

長尾隆司　盤所杏子
（小農塾）（運動教室）

田口理子
（ばあちゃん食堂）

学校支援部
岩田 博
（運動会等）

地域学校協働活動、飛騨市学園構想の最新情報はこちらから！

facebook
ページ